

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年6月25日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3870105669
事業所名	グループホーム あゆみ
(ユニット名)	1階
記入者(管理者)	
氏名	高須賀 幸子
自己評価作成日	令和元/ 5/ 31

<p>【事業所理念】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ありのままを尊重し思いやりを持って共に歩む・個々の暮らしと地域との交流 ・安心できる毎日 	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外出の機会を増やすとの目標については少人数での外出により、買い物に行ったり、花を見に出掛けたりする事ができた。 ・運営推進会議への家族参加の目標は、家族会と一緒に参加していただき、その後も参加いただけている。 	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>開設後13年が経過する事業所は、周りを田畑に囲まれた静かな環境の中にあり、利用者一人ひとりのペースに合わせてゆったりとした生活が送れるよう支援している。地域との交流にも積極的に取り組んでおり、玄関周りに花を植えたり、ベンチを置いたりして近隣住民等が気軽に立ち寄りやすい雰囲気づくりに努めている。管理者と職員は日頃の会話を絶やさず意思疎通を図りながら、利用者や家族の意向に沿い利用者が共に仲良く過ごせるよう支援に努めている。</p>
---	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思い暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	ご本人に伺える方は聞き取りしているが、伝えることが出来ない方は、ご家族などから聞き取りしている	○	/	○	職員は日頃の会話の中から、利用者個々の思いや意向を聞き取るようにしている。意思疎通が困難な利用者には、家族から聞き取るようにしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の様子などから推測したりしている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご家族にも面会時などに伺うようにしている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	センター方式の記入をお願いし、本人からの情報があれば追加するようにしている	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	普段の会話などから思いをくみ取るようにしている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	ご家族も昔のことはなかなか覚えていないことがあり、情報の収集がむづかしい	/	/	○	入居時に家族等から得られた情報に加え、利用者の過去の写真を見ながら話しかけることで利用者自身から昔の情報等を得ている。家族の面会時にも、その都度家族に確認し新たな情報を把握するよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	見直しの時期には確認している	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	表情や行動などを観察し把握に努めている	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	一人一人の関わり方など注意して対応している	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	其々の好きなことや排泄パターンなどに合わせて生活リズムがうまく流れるように注意している	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	会議などで意見を出し合い検討している	/	/	○	3か月に1度アセスメントし、「私のしたいこと」「私の安心・快」「心身の力の発揮」「安全・健やか」「私の家族への願い」など5つの視点で課題を抽出し、ケアプランを作成しており、内容については回覧して全職員で情報共有に努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	毎月の会議や担当者会議で検討している	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	本人の意向も併せて課題を見つけるようにしている	/	/	/	

愛媛県グループホームあゆみ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	生活歴なども参考にしている	/	/	/	3か月に1度の検討会で職員それぞれがアイデアを出し合い、介護計画を作成するようにしており、作成後は全職員で回覧し情報を共有している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人は理解のできない方が多く、難しいが、家族、職員の意見を反映しながら作成している	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	好みの暮らし方が出来る様に努力している	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	ご家族の関わりは大切だと思っている	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	一人一人に合わせた介護が出来ている	/	/	/	○ 利用者個々の介護計画を把握し職員全員で共有している。日々のケアはチェックシートで毎日チェックを行い、その結果は生活記録に記録し職員間で共有している。利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子や職員の気づき、アイデア等を生活記録に残している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎日の実施状況の記録とひと月ごとの結果を確認している	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	生活記録に記録している	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	記録したり、申し送りしている	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3か月に一度実施している	/	/	/	◎ 介護記録は3か月毎に見直している。毎月サービス担当者会議で利用者の状態を確認している。入退院等状態に変化がある場合は、その都度家族等を交え話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	実施できている	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に合わせて見直しするようにしている	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	必要時には話し合いをしている	/	/	/	○ 毎月のサービス担当者会議で介護計画等について話し合うほか、緊急案件等がある場合は、その都度ミーティングを開催し検討している。参加できない職員に対しては、管理者が意見や提案等を聞き取り会議に反映させており、会議結果は議事録を回覧して職員全員で共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	意見交換や対応策などが話し合っている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	勤務時間内に時間を設定している。参加出来ない職員は記録を確認している	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議録を回覧している	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートで確認している	/	/	/	◎ 利用者の状態の変化等重要なことについては、申し送りノートに記載しており、それを職員全員が確認し情報を共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	業務日誌・申し送りノート・ホワイトボードを確認するようにしている	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	したいことがわかる方はかなえられるように努力している	/	/	/	食事の時間や起床時間など、入居前に得られた利用者個々の生活パターン等を尊重し、それぞれのペースに合わせて選べるよう配慮されている。職員は手芸や絵紙など、好きなことを利用者同士が仲良く一緒に楽しみながら取り組んでもらうような場の提供に努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	選択肢を提供し選べるようにしている	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	本人が自分で決める機会があるように声掛けなどしている	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	本人の習慣を理解した上で、可能な限り本人のペースに合わせている	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	生活歴などを理解し、他者等と昔の話が出来る様に声掛けしている	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情などの観察で理解するように努めている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	言葉使いや、声掛け時の対応には注意を払っている	/	◎	○	利用者への対応は、人権や尊厳を念頭に優しく声をかけ、丁寧に接するようになっている。トイレ誘導等の際は、耳元でのさりげない声かけを徹底しており、羞恥心への配慮に努めている。居室へは、必ずノックし声をかけ許可を得てから入室するようになっている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	なるべく耳元で声を掛けるようにしている	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	利用者により対応の仕方には注意している	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	入室時には必ずノックを行い、声を掛けてから入室するようになっている	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	理解している	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	お手伝いなどを通じ、感謝の言葉を必ず伝えている	/	/	/	利用者同士の関係性を考慮し配席するなど、仲良く過ごしてもらえるようになっている。リーダー的存在の利用者が他の人に声をかけて気を配ってくれていることもあり、孤立した利用者が出ないよう努めている。不穏な雰囲気になりそうな時は、職員が間に入り仲介しており、トラブルを未然に防ぐようになっている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	共に声掛け合って作業する姿はほほえましく、時間がかかっても、見守っている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	テーブルの席は話のできる方同士にしたり、つながらない時には職員が中に入りたりしている。リーダーシップをとる方もおり、行き過ぎるときには職員が対応している	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員が間に入るがすぐ忘れていく	/	/	/	

愛媛県グループホームあゆみ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居時に聞き取りしたり、不足があれば面会時などにも聞くようにしている				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	普段の会話などから把握し、家族にも確認することもある				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	面会に来られることが多く会いに出掛ける事はあまりない				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	定期的にお弁当を持ってきて一緒に食べる方もいる				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	庭に出て外気浴程度は出来るが、遠出などは行けていない	△	△	△	利用者の重度化に伴い、庭に出て外気浴を行っている程度で、昔と比べ外出する機会が少ないのが現状であるため、今後は家族等の協力を得て定期的に近隣を散歩するなど、利用者が気分転換できる支援に努めて欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	運営推進会議のなかで協力が得られるように話している				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	気候にもよるが本人の意向も聞きながら外気浴などしている			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	ご家族の協力がある方は出かけている				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	一人一人の状態を検討しながら対応している				居室の清掃、洗濯物を干したりたたんだりするなど、利用者それぞれにできることを取り組んでもらっており、職員は傍で見守り、場合によっては手伝っている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	体操・歩行練習など日常の中で出来る事をして頂いている				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	遠目で見守りさげなく介助している	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	其々の出来る力を活かせるように取り組んでいる				庭の菜園の野菜の収穫やテーブル拭きなど、利用者一人ひとりが役割や出番を心待ちにしており、いつも楽しみながら取り組んでもらえるよう努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	洗濯物干しやたむことも利用者の仕事として取り組んで頂いており、利用者同士出来ない所は助け合っでされている	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域の行事になかなか参加出来なくなっている				

愛媛県グループホームあゆみ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	本人の生活動作の中から把握するようにしている				衣服の乱れや汚れがある時は、他の利用者に気づかれないようにさりげなく声かけをし着替えてもらっている。重度の利用者を含め、訪問理美容や家族等の協力により、好みの髪型や服装等その人らしさが保てるよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	ご本人の好みに整えられるよう配慮している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	選択肢を提供し一緒に決めている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	本人の持ち物から選んで楽しめるようにしている				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりしげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	食べこぼしのある方は、エプロンではなく、タオルを使用している	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	ホームに理美容師が訪問しているため全員その時に実施している。ご家族が馴染みの所に連れて行かれることもある				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	ご家族の協力もありご本人の好みの衣類など持参してくれている			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	一緒に食事を摂り、食べ残しへの声掛けなどしながらゆっくり召し上がっていただいている				調理の下ごしらえ手伝いや食器の片付け、テーブル拭きなどをしてもらっている。旬の野菜等を食材にし季節感を味わってもらうことや、誕生会などのイベントの日にはちらし寿司やケーキなどのメニューを提供している。利用者それぞれ使いやすい食器を使用している。職員も食卓を囲み一緒に食事しながら利用者の様子を確認しており、場合によっては介助している。リビングからキッチンが見えるため、重度の利用者を含め、調理の匂いや音を感じることができる。調理師と管理者が話し合い、栄養バランスのとれた献立になるよう検討している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	高齢でもあり共に行うことは難しいが、簡単な作業(豆の筋取り、梅のヘタ取り、お茶の葉の袋詰め等)はして頂いている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	テーブル拭きをしたり、材料の下ごしらえなどはしていただいている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時に確認しているが、後で言われることもある				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	旬の食材は取り入れており、昔の思い出につながるような声掛けをしたりしている			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者の状態に合わせて、調理・盛り付けしている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	今まで使っていたものを持参される方はいないため、こちらで準備した物を使用しているが、使いやすいものを選んでいく			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	職員も一緒に食べながら、利用者の様子はいつも確認し、対応している			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	重度の方も食堂に出て皆さんと食事をしている	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量や水分量は記録し、一人一人に合わせて量も気を付けている				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事を食べやすい形態にしたり、飲み物もお茶だけでなく、コーヒー、紅茶なども取り入れ、温度にも気を付けている				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	調理師に任せているが、利用者の好みの把握もしてくれている			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	調理用具は毎日ハイター液につけて消毒している。食材も新鮮な物を購入してきている。ジアッシュによる手指消毒も必ず実施している				

愛媛県グループホームあゆみ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	一人一人付き添い見守り確認している	/	/	/	職員は口腔ケアの重要性を理解し、口腔体操を念入りに行い健康が保てるよう支援しており、毎日利用者個々の口腔内の状況をチェックし、入れ歯などを毎晩洗浄剤に浸すなど清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	歯磨きの時にはきれいに磨けているかの確認を行い、磨きなおもしている	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科医の指示をもらい、日常に活かしている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎回付き添い声掛けしながら、洗浄していただき、夜は入れ歯洗浄剤で消毒している	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	声掛けしながら口腔内の確認もしている	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	訪問歯科に連絡すれば、往診治療してくれる体制になっている	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	布パンツからすぐに紙パンツにすることなく、トイレ誘導の回数を増やしたりしながら状態観察している	/	/	/	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中・夜間ともトイレ誘導に努めるなど、トイレで排泄できるよう支援している。尿量等に応じた適切な排泄用品の使用等について、看護職員等を交えて話し合い利用者一人ひとりの状態に応じ支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	水分摂取量や運動の声掛けしている	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	利用者の状態に合わせて、トイレ誘導の声掛けを行い、必要に応じ介助している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	基本的にポータブルトイレは使用しない方針であり、トイレで排泄できる方は可能な限りトイレ誘導している	/	◎	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	回数や心理的要因など改善点について話し合い検討している	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	毎日排泄の時間を記録しており、パターンは把握しているため、早目に声掛けして対応している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どのような時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	状態を説明し、必要最低限で使用するようにしている。本人の好みの厚さや色も選択できるように支援している	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	状態に合わせて、夜間のみ紙パンツにしたり、パッドの吸収量の多いものに変えたりしている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分摂取量や運動不足は気をつけ、廊下を歩いてもらったり、水分摂取を促したりしている。好みのジュース等や、ポカリなども摂ってもらっている	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	職員の配置の関係もあり、希望や習慣には応じられていない。	◎	/	△	週2回入浴できるようになっているが、曜日や時間帯等を事業所の都合で決めているため、湯温や入浴時間の長さなども含め、利用者の要望にも応じられるよう支援することが望まれる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	何気ない会話などしながら、入浴してもらっている	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	本人の出来る事はして頂き、洗い忘れなどは声掛けし、なるべく自分でして頂いている。見守りは必ずしている	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	拒否があれば時間をずらしたり、対応者を変えたりしている	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルチェックは必ず実施しており、状態に合わせて再検もしてから判断している。入浴後も必要に応じて実施している	/	/	/	

愛媛県グループホームあゆみ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	定期的に訪室し、睡眠状態を確認している	/	/	/	寝具は利用者が慣れたものを使用するほか、日中の活動量を増やすよう工夫するなど、薬剤には頼らない支援に努めている。不眠が続くなどやむを得ない場合は、医師と相談し薬剤を処方してもらうようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中の生活の見直しなどして夜間眠れる生活リズムを検討している	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	往診時に医師と相談しながら、また日中の生活の検討もしている	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	必要に応じ居室で休む時間を作ったり午睡してもらうようにしている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	携帯電話を持っている方もおり、自分でかけたり、かかってくる	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	希望があれば電話を掛けたりできる体制はある。年賀状など書いてもらい出したりしている	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	居室に誘導したり、他者のいない場所に誘導しゆっくり話できるようにしている	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	お礼状を書くことを勧めたり、書いた手紙は郵便配達員に手渡したりしている	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	通信の自由は説明しており、友人からの絵手紙や年賀状なども届いている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	理解している	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	買い物に出掛ける機会は少ないが、買い物に行く時には使用している。お孫さんが来た時等に渡したりしている方もいる	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	買い物には回数はないが職員と一緒にやっている	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	ご家族と相談し、持つことに理解がある方には持ってもらっている	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	話し合っている。買い物に行く時には、事前に家族に伝えるようにしている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	立て替え払いにしており、立て替えた場合には、月末の請求時に領収書などを付けて請求している	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	受診介助や個別の外出支援などがある時には家族の状況に合わせてスタッフが対応している	◎	/	○	急な病院受診については、職員が付き添い同行するなど、柔軟なサービス提供に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関は日中施錠せず、自由に入出入りできるようにしている。又玄関入口の横には、ベンチを置き、いつでも座ってつろぐことができる様にしている	◎	◎	◎	玄関周りに季節の花や利用者が作成した小物が飾られており、親近感があり気軽に入りやすい雰囲気になっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	利用者の作品などを飾り、それを見ながら話が出来たりする空間を作っている	◎	○	○	共用空間は明るく広々としており、開放感がありゆったりした気分になる。清掃は1日2回行うなど、きれいで行き届いており清潔感がある。テーブルには季節の生花を飾り、壁には利用者が作った絵手紙等の作品が飾られており、自然と足が止まりずっと眺めていたい雰囲気になり居心地よく過ごせるようになっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	排泄の臭いは消臭スプレーで除去している。掃除は朝・夕行っている				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の生花や花鉢をテーブルに飾ったり、壁に季節感のあるクラフトを皆さんで作り飾っている				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	室内に配置したソファや玄関にベンチもおいている				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	きちんと仕切られており見えないようになっている				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	居室には使い慣れた物を持ち込んでもらったり、壁に自分の趣味の物を飾ったりしている	◎		○	テレビや家具など利用者が使い慣れたものが、思い思いに配置されており、居心地よく過ごせる空間になっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	居室の入口には名前を貼っており、自分の名前を見て居室に入っている。廊下、トイレ・浴室などは手すりを設置しており、安全に配慮している			○	廊下やトイレ、浴室に低めの手すりを設置して、バリアフリーを進めるなど、利用者が安心して生活できるよう配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	利用者の立場に立って配置など検討している				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	リビングの引き出しにはバスルなどを入れており、自分で出してする方もいる。新聞・雑誌も出窓などに置いており、自由に使用できるようにしている				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	夜間以外は施錠しておらず、自由に入出入りできている。訪問客を玄関まで送り出せる方もいる	◎	◎	◎	職員は玄関等を施錠することの弊害について理解しており、日中玄関は施錠しておらず、自由に入出入りできるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	家族も施錠を望む方はおられず、今の所それに伴った事故もない				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	玄関にはセンサーがあり、出入りすると音でわかるようになっている。又1階のリビングの窓から駐車場・玄関が見えるため、出入りの把握が出来る				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時の情報は把握しており、入居後も体調の変化があれば、看護師より申し送りを受けている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎朝バイタルチェックを行い、状態を確認している。必要があればチェックの回数も増やし記録している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	月2回の往診があり、看護師が対応している。年1回健康診断も行って、必要があれば検査や入院の指示をもらい対応している				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	◎	ご家族の意向を聞き医師に紹介状を頂き受診に繋げている		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	月2回の往診、体調不良時には職員が受診介助している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	契約時には必ず説明しており、受診前後にも報告している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	情報提供表を作成している				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院関係者とも連携を取り、早期退院となるよう相談しながら行っている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	利用者の情報提供など行い、状態確認の訪問など行っている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	毎日の申し送り時や体調不良時には看護師に報告し、指示を仰ぐようにしている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	看護師はオンコールで対応することになっている。医師は状態により対応してくれる体制になっている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	状態変化があれば協力医療機関と相談し、指示を受けたり、受診に繋げたりできている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	其々のお薬情報に目を通し理解するようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	看護師がケースに1週間ごとに保管しており、服薬時にはケースごと持参し、名前・曜日・時間帯・飲み忘れの確認を行っている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	薬の変更時は特に注意している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	情報提供出来ている				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時に説明し、その状況になった時には医師との話し合いを行っている	/	/	/	在宅医の協力により看取りのできる体制を整え支援している。看取りの際には、利用者や家族、医療関係者、職員等で話し合い、家族等の意向を確認し方針を共有している。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	ご家族の意向も伺い共有している	○		○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	看護師と相談しながら対応の検討をしている	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	契約時に説明しているが、聞かれた時にも説明し理解頂くようにしている	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	状態の変化や家族の意向の変化にも対応できるように心がけている	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の精神面のサポートが出来る様、本人のことだけでなくいろいろな話を聞くよう心がけている	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	常に注意はしているが、特に感染シーズンには勉強している	/	/	/		
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	職員会議などで周知している。手順・準備物の用意もしている	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	最新情報・予防法等取り入れている	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	地域の感染情報を基に面会などに注意している	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	来訪者には玄関で手の消毒をしてもらいシーズンにはマスクの着用もお願いしている	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	面会時には日頃の様子をお伝えするようにしている	/	/	/	年1～2回家族会と運営推進会議を合同で行うほか、夏祭りやクリスマス会などの行事を家族に案内し参加してもらっている。毎月発行の「あゆみだより」に利用者の様子を掲載し、家族に送付して報告している。事業所の運営上のことや職員の異動等については、一部の家族にしか知らせていないため、全ての家族に知ってもらえるような取組みが望まれる。家族の面会時には、必ず声をかけ利用者の様子を伝えたり、家族からの意見や要望等を伺ったりしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	面会時には家族・利用者が居心地良く過ごせる場所を提供している(居室・リビング・相談室など)	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	夏祭りやクリスマス会などご家族・地域にも案内し参加いただいている	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月あゆみだよりを送付し写真で、様子が解るようにしている。利用者ごとにコメントも書くようにしている	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	面会時には日頃の様子などお話しし、不安や気になることなどないかお聞きするようにしている	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	現状を伝えたり、対応方法を伝え理解いただくようにしている	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	職員の異動・退職については、すべてを全ご家族に報告はできていない	○	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会や行事の案内をして、参加して頂けるようにしている。運営推進会議にも参加して頂いている	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	拘束しない対応のリスクなど理解いただくように説明している	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪時には様子を伝えたり、希望など伺うようにしている。ご家族の心配事も伺うこともある。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	重要事項の説明時すべて読み上げ説明し、質問など聞いている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去時には他の施設に移る場合も、入院の場合も、情報提供している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	説明し同意を得ている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	設立時から話し合いを持ち、理解いただいている	/	◎	/	周囲が田畑や事業所に囲まれており、近隣住民と会うことが少ないため、例年参加する地域の夏祭り等の機会を利用するなど、地域とのつながりがより深まるよう取り組んで欲しい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	町内の行事等、利用者が参加出来なくても、職員だけでも参加し、顔を合わせたりあいさつするようになっている	/	○	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	◎	防災訓練などに参加すると、沢山の方が声を掛けてくれるようになった	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	周囲に家が無く、見学などには来られるが、遊びに来る事はほとんどない	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	周囲が田んぼや畑のため、日常的にはあまり接することがない。散歩の方と挨拶する程度	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	行事の時には、城南高校のボランティアに支援して頂いている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	町内会・民生委員・いきいきサロンなど協力してくれている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	城南高校とは実習の受け入れもしており、ホームの行事には生徒のボランティアをお願いしたり備品の借入れをお願いしたりしている。2年に1回の地域防災訓練も生徒が協力してくれている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者は参加できていないが、ご家族は、参加して頂けるようになっている。地域の方々は毎回参加いただける。	/	◎	○	運営推進会議には、家族や町内会長、民生委員、市担当者などの出席を得ているが、利用者の参加がないため、参加できるよう日程調整等を工夫して欲しい。外部評価結果や取り組み状況等については報告しているが、それに対する参加者からの具体的な意見や提案等が得られていないため、今後の運営に活かすための意見等が得られる工夫が望まれる。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	報告している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	意見・提案を取り入れながら、日々取り組んでいる	/	◎	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	時間は相談して決めており、家族も徐々に参加してくれるようになっている	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	玄関に置いて自由にみれるようにしている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	意識して取り組んでいる	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関・リビングに掲げている	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修費用の負担などしてくれる	/	/	/	代表者は、職員と日頃からコミュニケーションを多くとり、要望等には即対応するなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んでおり、職員は安心して業務を遂行している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	個々のレベルに応じて取り組んでいる	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	個々の勤務状況等について評価を行い、給与水準の改善など行っている	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	職員の参加機会が持てていない	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	改善出来る事は早急にしてきている	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	定期的に委員会を開催し、勉強会もしている	/	/	/	虐待防止に関するマニュアルを整備し、3か月に一度の委員会や年2回の研修会を行っており、管理者と職員は不適切なケア等への対応方法や手順等について把握している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	申し送り時などには対応を話し合っている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	入浴時には全身の観察を行ったり、虐待防止委員会を開催して意識付けている	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	言葉使いや、対応の仕方など注意して観察している	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	勉強会で理解している	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	身体拘束廃止委員会で話し合っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族からの要望はなく、拘束の実施もない	/	/	/	

愛媛県グループホームあゆみ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	内容が難しくあまり理解は出来ていない				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	相談があれば出来る体制はある				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	該当者はなく連携体制はない				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルの周知は出来ている				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的には出来ていないが、看護師の指導はある				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	職員間で共有している				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	其々のリスクについて話し合っている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	理解し検討している				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	対応している				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	話し合いをしながら速やかに回答している				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	個別に話を訊く機会を持っている			◎	利用者からは日頃の会話から把握するほか、個別に話を聞く機会を設けている。家族からは面会時等に伺うようにしている。管理者と職員の間は良好で、職員からの意見等は気軽に聞けており、個別に話を聞く機会もあり、得られた意見等を運営に活かせるようにしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	個別に話を訊く機会を持っている	◎		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	窓口の記載された重要事項説明書を玄関に貼りだしている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	代表者が看護師として勤務しており、職員との話は良く出来ている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	意見や提案を聞く機会を持つように努めている			○	

愛媛県グループホームあゆみ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	理解し取り組んでいる				サービス評価について、運営推進会議の参加者に説明し理解を得ており、評価の取組み状況について、具体的に意見や提案等も出してもらっており、サービス向上等運営に活かしている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	自分たちの実施しているケアが適切かどうか確認する良い機会となっている				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	身近な目標を立て達成できるように取り組むことで、自信につながる				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	会議で報告し意見を頂いている	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	確認している				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	周知している				避難訓練は年2回、消防訓練は年1回、警備会社の協力体制のもと実施している。地域の防災訓練には利用者も一緒に参加し交流を深めており、地域との協力体制は築けている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	セコム・南消防署・自主の3回実施している				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備の点検は定期的に行っている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	年に1度は南消防署による避難訓練を実施している。2年に1度は地域防災訓練があり、利用者さんも参加している	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	◎	2年に1度地域防災訓練があり、利用者と共に参加している				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	×	最近は出来ていない				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	相談があれば対応している		×	△	地域の方から認知症介護に関する相談があれば対応する程度で、物足りなさが感じられるため、事業所の相談支援についてPRするなど、相談件数が増えるような取組みが望まれる。中学校や高校の職場体験や実習などに協力し介護人材の育成に努めたり、いきいきサロン等地域の交流の場に参加したりしているが、地域の関係機関等との協働イベントの開催には至っていないため、介護教室や認知症サポーター養成講座等関係機関との協働イベントの開催に期待したい。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	×	活用していない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	城南高校福祉科の実習を毎年受け入れている				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	◎	久米中学校の職場体験の受け入れや、城南高校の実習受け入れをしている			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年6月25日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3870105669
事業所名	グループホーム あゆみ
(ユニット名)	2F
記入者(管理者)	
氏名	池内 健
自己評価作成日	2019年 5月 29日

<p>【事業所理念】 ・ありのままを尊重し思いやりを持って共に歩む。 ・個々の暮らしと地域との交流 ・安心できる毎日</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・外出の機会を増やすとの目標については少人数での外出により、買い物に行ったり、花を見に出掛けたりする事ができた。 ・運営推進会議への家族参加の目標は、家族会と一緒に参加していただき、その後も参加いただけている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 開設後13年が経過する事業所は、周りを田畑に囲まれた静かな環境の中にあり、利用者一人ひとりのペースに合わせゆったりとした生活が送れるよう支援している。地域との交流にも積極的に取り組んでおり、玄関周りに花を植えたり、ベンチを置いたりして近隣住民等が気軽に立ち寄りやすい雰囲気づくりに努めている。管理者と職員は日頃の会話を絶やさず意思疎通を図りながら、利用者や家族の意向に沿い利用者が共に仲良く過ごせるよう支援に努めている。</p>
---	---	---

評価結果表

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	アセスメントシートで本人の希望やしりたこと等を把握している。	○	/	○	職員は日頃の会話の中から、利用者個々の思いや意向を聞き取るようにしている。意思疎通が困難な利用者には、家族から聞き取るようにしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	話すことが出来ない入居者の表情を見て何をしたら喜ぶかを考えて行っている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族さん面会時に最近の状況やよく話の中に出てくる事から何を訴えてきているか話し合います。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	アセスメントシートに記録している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	会話の中から考えや思いを把握するようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	家族さんと病院からの事前情報は聞いている。入所してからの日々の気づきは記録し担当者会議にて話される。	/	/	○	入居時に家族等から得られた情報に加え、利用者の過去の写真を見ながら話しかけることで利用者自身から昔の情報等を得ている。家族の面会時にも、その都度家族に確認し新たな情報を把握するよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	脳トレやレク、日常動作の中で得意な事や苦手な事、どのぐらい身体が動かせるのかを確認している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	1日の中でどの時間に不穏になるか、どんな言葉に反応しているか把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	精神的に不安定な人がいるので原因については注意している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	記録をつけており把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	情報から不穏な時の行動理由を考え対策をしている。	/	/	○	3か月に1度アセスメントし、「私のしたいこと」「私の安心・快」「心身の力の発揮」「安全・健やか」「私の家族への願い」など5つの視点で課題を抽出し、ケアプランを作成しており、内容については回覧して全職員で情報共有に努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人の状態などを見て脳トレや筋トレを行い次に繋がる支援を考えている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	本人の今できることを維持しつつ新しいことが出来るように課題を見つけている。	/	/	/	

愛媛県グループホームあゆみ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	自分の思いや意向が話せる人は反映しており、話せない人や理解できない人はこちらで考えている。	/	/	/	3か月に1度の検討会で職員それぞれがアイデアを出し合い、介護計画を作成するようにしており、作成後は全職員で回覧し情報を共有している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	自分のことが話せる人は反映しており、話せない人や理解できない人はこちらで考えている。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	壁やタンスの上に写真や好きな物を置いてもらい、いつでも見えるようにしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	外出など家族さんに協力してもらっている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	申し送りノートで計画の内容、変更点などを把握できるようになっている。	/	/	○	利用者個々の介護計画を把握し職員全員で共有している。日々のケアはチェックシートで毎日チェックを行い、その結果は生活記録に記録し職員間で共有している。利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子や職員の気づき、アイデア等を生活記録に残している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	毎日ケアの内容を記録し毎週評価している。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	生活記録に記録している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	申し送りで伝達しており、良ければ申し送りノートに記録している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	本人の身体の変化に合わせて変更している。	/	/	◎	介護記録は3か月毎に見直している。毎月サービス担当者会議で利用者の状態を確認している。入退院等状態に変化がある場合は、その都度家族等を交え話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	評価は行っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化に合した計画の変更を行っている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	担当者会議にて3か月に1回話し合うが状況によっては担当者会議にてすぐに話することができる。	/	/	○	毎月のサービス担当者会議で介護計画等について話し合うほか、緊急案件等がある場合は、その都度ミーティングを開催し検討している。参加できない職員に対しては、管理者が意見や提案等を聞き取り会議に反映させており、会議結果は議事録を回覧して職員全員で共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	担当者の話のあとに意見交換が行われている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	分かり易いように開催日が決まっている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	記録がしてあり後で見えるようになっている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りやノートで共有するようにしている。	/	/	◎	利用者の状態の変化等重要なことについては、申し送りノートに記載しており、それを職員全員が確認し情報を共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りやノートで読んだらサインするようになっている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その日の気持ちとか、したいことを聞いている。	/	/	/	食事の時間や起床時間など、入居前に得られた利用者個々の生活パターン等を尊重し、それぞれのペースに合わせて選べるよう配慮されている。職員は手芸や絵紙など、好きなことを利用者同士が仲良く一緒に楽しみながら取り組んでもらうような場の提供に努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	脳トレや塗り絵など自分のしたい物を選んでもらっている。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人の希望に合わせてできることやしたいことをしてもらっている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	食事の時間などは決めており、ゆっくり食べられるようになっている。また、個人のタイミングで出すようにしている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	入居者の表情や行動に合わせた声掛けをしている。	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や顔色、しぐさなど、その人の反応を見ながら支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	入居者のデリケートな問題は1人の時または自室で話すようにしている。	◎	○	○	利用者への対応は、人権や尊厳を念頭に優しく声をかけ、丁寧に接するようになっている。トイレ誘導等の際は、耳元でのさりげない声かけを徹底しており、羞恥心への配慮に努めている。居室へは、必ずノックし声をかけ許可を得てから入室するようになっている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	利用者一人ひとりに合った声かけ、言葉使いをするように心掛けている。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	外から見えないようプライバシーに配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	部屋にいらっしゃる時はノックしたり、声掛けをして入室している。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	勉強会にて勉強しており写真やデータの取り扱いには気をつけている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	本人に出来ることをしてもらい生活の中でできること役割を決め助け合えるようにしている。	/	/	/	利用者同士の関係性を考慮し配席するなど、仲良く過ごしてもらえるようにしている。リーダー的存在の利用者が他の人に声をかけて気を配ってくれていることもあり、孤立した利用者が出ないように努めている。不穏な雰囲気になりそうな時は、職員が間に入り仲介しており、トラブルを未然に防ぐようになっている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	病気の為できない人もいるができるだけみんなで出来ることはみんなですしている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	関係を把握しているが相性が悪くトラブルや依存関係になってしまうことがあるので、その都度職員が間に入っている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	入居者同士では解決することができないので職員が中にはいり対応している。	/	/	/	

愛媛県グループホームあゆみ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	事前情報があり把握している				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人からの話と家族さんからの情報で把握している。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	近くの地域の人や元気な人は地域行事に参加することがあるがその出来ない人もいる。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時には話しやすいような環境を作っている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	外出時は職員の人数の多い日になっている。	△	△	△	利用者の重度化に伴い、庭に出て外気浴を行っている程度で、昔と比べ外出する機会が少ないのが現状であるため、今後は家族等の協力を得て定期的に近隣を散歩するなど、利用者が気分転換できる支援に努めて欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	外出を計画する時は家族さんの協力を得るようにしている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	天気のいい日は日向ぼっこをしている。			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族さんが本人の好きだった店などに連れて行ってきている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	状態の変化や感情の変化があった時は記録に残し対応できるように話し合っている。				居室の清掃、洗濯物を干したりたたんだりするなど、利用者それぞれにできることを取り組んでもらっており、職員は傍で見守り、場合によっては手伝っている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	脳トレや筋トレなど入居者に合わせたものをしている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	職員と一緒にしてから徐々に1人で出来るようにしていく。出来ない場合は職員と行う。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	入居者の表情や感情を見て何をしているのが楽しんでいるのか把握している。				庭の菜園の野菜の収穫やテーブル拭きなど、利用者一人ひとりが役割や出番を心待ちにしており、いつも楽しみながら取り組んでもらえるよう努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	本人が日常生活の中で出来ることをしてもらっている。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域でのお祭りや盆踊りに参加している。				

愛媛県グループホームあゆみ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人の好きな色などを把握し服を選ぶときに使用している。				衣服の乱れや汚れがある時は、他の利用者に気づかれないようにさりげなく声かけをし着替えてもらっている。重度の利用者を含め、訪問理美容や家族等の協力により、好みの髪型や服装等その人らしさが保てるよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	自分で出来る人は自分の好みに出来るがあとは職員で決めている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	職員との話し合いの中で決めていく。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節に合わせた服装や楽しめる服装を工夫している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたり上げなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	洗面所などで声掛けをするようにしている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	本人や家族の希望の店に行ける。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	パジャマのままではなく服に着替えているが体調により出来ない人もいる。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事介助がいる人がいるので食事について話し合っている。				調理の下ごしらえ手伝いや食器の片付け、テーブル拭きなどをしてもらっている。旬の野菜等を食材にし季節感を味わってもらうことや、誕生会などのイベントの日にはちらし寿司やケーキなどのメニューを提供している。利用者それぞれ使いやすい食器を使用している。職員も食卓を囲み一緒に食事しながら利用者の様子を確認しており、場合によっては介助している。リビングからキッチンが見えるため、重度の利用者を含め、調理の匂いや音を感じることができる。調理師と管理者が話し合い、栄養バランスのとれた献立になるよう検討している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	職員が行っている事が多いが食器を片づけたり、テーブルを拭いてくれる。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	出来る人にはテーブル拭きなどして貰っている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	事前情報から把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	季節に合わせた食事やデザートがある。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	食物繊維がとれる食事になっているが入居者の状態に合わせてミキサー食やゼリー食にしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	箸や湯飲みは本人の決まった物を使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	職員も一緒に食べながら見守りしている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事の時に声掛けしながら行っている。		◎	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	記録し把握している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	声掛けの方法や水分の種類など工夫をしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	アドバイスは受けていないがバランスの良い食事を出している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	消毒や管理を徹底している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	理解している。				職員は口腔ケアの重要性を理解し、口腔体操を念入りに行い健康が保てるよう支援しており、毎日利用者個々の口腔内の状況をチェックし、入れ歯などを毎晩洗浄剤に浸すなど清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	歯の状態は確認している。義歯は夜間職員が管理し状態を見ている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	教えても本人のやり方に戻ってしまう。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	声掛けや義歯洗浄の管理をしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	義歯の管理は職員が行い歯磨きやうがい等はもらっている。出来ないことは職員が行っている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	痛みや不具合の訴えがあるときは歯医者に電話をして来てもらっている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	オムツや紙パンツを使用している人が多く話し合いをしている。				利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中・夜間ともトイレ誘導に努めるなど、トイレで排泄できるよう支援している。尿量等に応じた適切な排泄用品の使用等について、看護職員等を交えて話し合い利用者一人ひとりの状態に応じ支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘になりやすい人がいるので日々の情報把握し話し合い理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	記録に残し把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	入居者の状態に合わせて変更している。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	食事量や水分量、運動で改善出来ないか取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	入居者の行動や表情で声を掛けるようにしている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	パッドは尿量など考えて職員が決めている。おむつやリハパンに変更する時は家族さんと話し合い決めている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	日中はリハパン、夜間のみオムツなど利用者に合わせて使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	歩ける人には歩行練習などを取り入れている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	職員の都合で決めてしまっている。	◎		△	週2回入浴できるようになっているが、曜日や時間帯等を事業所の都合で決めているため、湯温や入浴時間の長さなども含め、利用者の要望にも応じられるよう支援することが望まれる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	一人ひとりの身体の状態に合わせ。会話しながら気分良く入浴している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	手の届く範囲は洗ってもらっている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	時間や日にちを変更したり職員を変えて対応している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	検温の結果や顔色で健康状態の確認をしており、入浴後は水分摂取を行い様子を見ている。				

愛媛県グループホームあゆみ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間の様子を記録しており把握している。	/	/	/	寝具は利用者が慣れたものを使用するほか、日中の活動量を増やすよう工夫するなど、薬剤には頼らない支援に努めている。不眠が続くなどやむを得ない場合は、医師と相談し薬剤を処方してもらうようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼寝の時間を減らしたりして対応している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中のリズムや状態を記録し検討後、医師に相談する。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	自分の居室で休んでもらうようにしている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	入居者の訴えがあれば電話をすることができる。手紙も出すことができる。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	本人が出来ない部分は介助している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	電話をかける人がいない為、配慮出来ていない。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	いつでも見えるように部屋の壁やタンスの上に飾っている。いつでも返信で来るように手紙を準備している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	面会に来てくれる家族さんがお祝いや手紙を持ってきてくれている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	所持しないようにしている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	外出行事なので店で買い物などを行っている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	働きかけを行えてないが問題なく買い物を行っている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	お金を管理出来ない人が多いが買い物などで使用する機会を作っている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族さんと話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	同意を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	状況に合わせて対応するようにしている。	/	◎	○	急な病院受診については、職員が付き添い同行するなど、柔軟なサービス提供に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	季節に応じた装飾や玄関周りに花などを置いている。	◎	◎	◎	玄関周りに季節の花や利用者が作成した小物が飾られており、親近感があり気軽に入りやすい雰囲気になっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	廊下やリビングには季節に合わせたクラフトを付けたりしている。	◎	○	○	共用空間は明るく広々としており、開放感がありゆったりした気分になる。清掃は1日2回行うなど、きれいで行き届いており清潔感がある。テーブルには季節の生花を飾り、壁には利用者が作った絵手紙等の作品が飾られており、自然と足が止まりずっと眺めていたい雰囲気になり居心地よく過ごせるようになっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	光の角度のよってカーテンをしたり、消臭剤などを使用して気を付けている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節に合わせた食事や行事、クラフトを飾っている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	相性を考えて席を決めている。居室で過ごせるようにしている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	しっかり閉じるようにしている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	タンスの上や壁などに好きな物を飾っている。	◎	/	○	テレビや家具など利用者が使い慣れたものが、思い思いに配置されており、居心地よく過ごせる空間になっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	廊下やトイレなどに手すりがあり、1人で安全に歩行したり座ることが出来る。	/	/	○	廊下やトイレ、浴室に低めの手すりを設置して、バリアフリー化を進めるなど、利用者が安心して生活できるよう配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	不安や混乱が起きた物は報告し退けるようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	家族さんに居室においてもらうようにしている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	理解しており鍵をかけることはない。	◎	◎	◎	職員は玄関等を施錠することの弊害について理解しており、日中玄関は施錠しておらず、自由に入出入りできるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話している。	○	施錠を望む家族さんが来たら話し合いをする。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	行動パターンの把握をするので対応できる。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入所時にアセスメントシートで確認する。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	いつもと違う変化や異常は記録し相談している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	往診時に気になることは聞くようにしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	かかりつけ医もいるが家族さんの希望する医療機関を受診できる。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族さんと相談し希望する医師を受診することは出来る。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受信時にはその都度連絡、結果を相談している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	家族さんに理解してもらい情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院時の状態などを情報交換をして、早期に退院できるように家族さんと話している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	特に紹介して頂くところには相談したり関係づくりをしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	ホーム長に相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	いつでも相談できる体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	2週間ごとの往診や定期的健康診断などを行っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	飲んでいる薬はわかるが詳しくは理解していない。わからない時は看護婦に相談している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	職員が名前のいれたケースに1週間分入れ管理し確実に飲ませるようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	薬の変更時は感情の変化や食事量の変化や体調の変化を注意して観察している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	受診時や往診時、変化時は伝えるようにしている。検査が必要な時などは家族さんに報告相談する。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	家族さんと話し合いをもち、主治医とも相談して方針を決め共有している。	/	/	/	在宅医の協力により看取りのできる体制を整え支援している。看取りの際には、利用者や家族、医療関係者、職員等で話し合い、家族等の意向を確認し方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	家族さんと医師で話し合い方針を共有している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員にも負担が多い時期なのでサポートしながら進めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	医師と職員、家族さんで十分に説明し話し合っており理解を深めている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	変化に備え、その都度カンファレンスを行い検討し準備を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	いつでも来れるようにし大切な時間を過ごしてもらい、家族さんの心の支えになれるように寄り添う。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症について職員会議で勉強している。	/	/	/	在宅医の協力により看取りのできる体制を整え支援している。看取りの際には、利用者や家族、医療関係者、職員等で話し合い、家族等の意向を確認し方針を共有している。
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	訓練は行っていないが手順にそった対応が守れるように準備してある。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	送られてくる情報などを確認して職員会議にて報告し共有している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	ニュースなどで流行次第対応するが日頃よりマスク、手洗いは実施している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	アルコール消毒やマスクなどするようになっている。訪問者も必ず手洗いマスクをしてもらっている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	一緒に行事に参加してもらうように声掛けをしている。	/	/	/	年1～2回家族会と運営推進会議を合同で行うほか、夏祭りやクリスマス会などの行事を家族に案内し参加してもらっている。毎月発行の「あゆみだより」に利用者の様子を掲載し、家族に送付して報告している。事業所の運営上のことや職員の異動等については、一部の家族にしか知らせていないため、全ての家族に知ってもらえるような取組みが望まれる。家族の面会時には、必ず声をかけ利用者の様子を伝えたり、家族からの意見や要望等を伺ったりしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時に近況を報告したり、壁に写真やクラフトを貼り話しやすい環境を作っている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	外出時や行事の時に連絡し、一緒に過ごす機会を作っている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	あゆみ便りのを毎月送り日頃の様子を見てもらい、来訪時は様子を説明するようになっている。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族会などでゆっくり話せる機会を作っている。面会時などでも個別に話す時間をとっている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時に日頃の話をしながら、少しでも家族さんと会話できるように説明したり、家族会で認知症について勉強している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	家族会や便りで行事などの報告をしている。	○	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会や行事などで話せる機会を持てるように参加の呼びかけをしている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居者の状態に変化があり介助の方法を変更する時などは家族さんに説明し理解を得る。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪時の声掛けをして話してもらえるように話しかけるようになっている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	変更時は家族さん説明して理解してもらっている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	家族さんもしっかり説明し納得していただいて退居していただく。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	説明し同意を得ている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	夏祭りなどの行事で地域との交流がある。	/	◎	/	周囲が田畑や事業所に囲まれており、近隣住民と会うことが少ないため、例年参加する地域の夏祭り等の機会を利用するなど、地域とのつながりがより深まるよう取り組んで欲しい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	町内の盆踊りなどに参加したり夏祭りでサロンとの関わりがある。	/	○	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域の役員の方たちが支援してくれている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	近所の人が野菜などを持ってきてくれたり、散歩をしている方が声をかけて下さる。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	日常的な関わりはないが散歩をしている方と挨拶をしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	近くの高校の生徒さんが行事の手伝いをしてくれたり交流がある。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域資源は理解しているがあまり活用できていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	地域、高校、消防など会議や行事、訓練で関係を深めている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	地域の役員の方、民生委員の方の参加がある。	/	◎	○	運営推進会議には、家族や町内会長、民生委員、市担当者などの出席を得ているが、利用者の参加がないため、参加できるよう日程調整等を工夫して欲しい。外部評価結果や取組み状況等については報告しているが、それに対する参加者からの具体的意見や提案等が得られていないため、今後の運営に活かすための意見等が得られる工夫が望まれる。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	会議の時に報告しアドバイス等頂いている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	運営推進ごとに現在の状況を聞いてもらい意見や提案を受け。サービス向上に活かしている。	/	◎	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	参加して頂きやすい時間を聞いて設定している。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	公表しており、玄関にファイルにし見えるようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	リビングに思念を飾ってあり共有している。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	家族さん利用者にも見えるようリビングや玄関に置いてある。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	力量に合わせて研修に行くようにしている。				代表者は、職員と日頃からコミュニケーションを多くとり、要望等には即対応するなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んでおり、職員は安心して業務を遂行している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	職員会議後に勉強会をしている。疑問に思ったことを話し合い考える機会を作っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	出来ている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	同業者との交流しネットワーク作りや勉強会をしており、職場環境も考え職場の意識の向上させる取り組みをしている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	勤務表など工夫したりコミュニケーションの場を設ける等している。		○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	職員会議で話し合ったり勉強会をしている。				虐待防止に関するマニュアルを整備し、3か月に一度の委員会や年2回の研修会を行っており、管理者と職員は不適切なケア等への対応方法や手順等について把握している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	会議の中や職務中に対応の方法などを相談する機会を作っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	マニュアルを職員全員が読んで理解できるように回覧している。			◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の状態を見ながら行動や発言には注意を払っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	職員会議で話をしている。やむを得ない場合も理解している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体的拘束はしていないが何が拘束になるにはその場面場面で話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設等の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族さんと話し合って拘束しないこととリスクについてを説明する。				

愛媛県グループホームあゆみ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	勉強会を行っている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	変更がある時は情報提供を行い説明したり相談にのっている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要な利用者の場合は情報提供したり相談にのれるようにしている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルがあるが急変や事故の時はその都度、看護師に相談している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	応急手当などの研修を受けている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットがあった時は対応策を話し合い再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者の行動を把握し起こりうる危険については話し合って事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルはあり職員は理解している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情が寄せられた場合は手順に沿って対応。市町にも相談、報告する。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情がある場合は対策をとりサービスの改善や過程、結果を伝え納得を得ながら話し合い関係づくりを行う。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	相談箱があり気軽に使えるようになっている。			◎	利用者からは日頃の会話から把握するほか、個別に話を聞く機会を設けている。家族からは面会時等に伺うようにしている。管理者と職員の関係は良好で、職員からの意見等は気軽に聞けており、個別に話を聞く機会もあり、得られた意見等を運営に活かせるようにしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	家族会がある。個別に面会に来られた時など意見や要望などを聞いている。	◎		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	家族会でも情報提供を行っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	職場においていつでも話すことが出来る。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	相談や提案を話し合い支援に反映している。			○	

愛媛県グループホームあゆみ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価を行っている。				サービス評価について、運営推進会議の参加者に説明し理解を得ており、評価の取組み状況について、具体的に意見や提案等も出してもらっており、サービス向上等運営に活かしている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価で今の状況や課題を明らかにし、みんなで話し合い質の向上の機会として活かしていく。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議や家族会で報告しアドバイスや今後の取り組みもモニターしてもらっている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	取り組み成果を確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	対応マニュアル製作し職員会議で報告している。発生時の行動や避難ルート装備など具体的にシミュレーションしている。				避難訓練は年2回、消防訓練は年1回、警備会社の協力体制のもと実施している。地域の防災訓練には利用者も一緒に参加し交流を深めており、地域との協力体制は築けている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	定期的に訓練している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消防訓練時に点検している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域の災害訓練に参加している。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	地域の災害訓練に参加し高校生による誘導や避難を行っている。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	地域人の相談は行っている。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談に来られた方や運営推進会議でも話し合うことが出来る。		×	△	地域の方から認知症介護に関する相談があれば対応する程度で、物足りなさが感じられるため、事業所の相談支援についてPRするなど、相談件数が増えるような取組みが望まれる。中学校や高校の職場体験や実習などに協力し介護人材の育成に努めたり、いきいきサロン等地域の交流の場に参加したりしているが、地域の関係機関等との協働イベントの開催には至っていないため、介護教室や認知症サポーター養成講座等関係機関との協働イベントの開催に期待したい。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	○	いきいきサロンにも参加させていただいているが今は行けていない。夏祭りで交流している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	高校生の実習や中学生の体験など受け入れている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	GHの交流会があり、勉強会にも参加している。			△	